

柴田承桂 しばた しょうけい 藥學者。嘉永二年五月十一日尾張國名古屋生れ、明治四十二年八月一日歿（八四九—一九〇〇）。明治三年文部省第一回留學生としてドイツに渡り、ベルリン大學で有機化學を學ぶ。七年歸國し、東京開成學校教授となる。十一年内務省衛生司に轉じて衛生行政に參與、十六年大日本製藥會社を創立し、十九年日本藥局方を公布。漢詩人亦坂石隸は實兄。また平生桂園派の歌を能くし、同好者を招いて歌會を催すなどした。植物生理學者柴田桂太、化學者柴田雄次の父。

譯書に、ヘルマン・ハーゲル著『顯微鏡用法』（明治十五年十一月不遺堂藏板）、島村利助・丸澤善七・田村平策發兌）がある。